

海外派遣留学生
留学報告書

学部学科:	文学研究科日本文学専攻		学部学科:	1年
留学先:	国:	タイ	大学/機関:	KMITL
期間:	2024年2月12日～2024年3月9日			
	<input checked="" type="radio"/> 短期・中期・長期 ※○で囲んでください。			計 1 ヶ月

・授業時間数:9

・科目名: 'Discussion Techniques in Japanese' 'Japanese for Guide' 'Japanese 2' 'Japanese 4' 'Japanese Conversation 2' 'Critical Reading in Japanese' 'KOSEN の日本語授業'

時間	月	火	水	木	金	土	日
9時～12時	○	○	○	○		Free	Free
13時～16時			○	○	○	Free	Free

[2] 授業内容について教えてください。

(クラス人数、国籍割合、担当の先生、授業方法、使用教材等)

クラス人数:約40人

国籍:タイ

担当の先生:日本人 or タイ人

授業方法:先生による。文法のクラスでは先生が一方向的に文法説明をし、問題を解かせる形が多い。一方でディスカッションのクラスでは与えられた資料に目を通す、自分の意見をまとめる、学生同士で共有するといった学生中心のグループワークが見受けられた。

[3] 課外活動・研修旅行・余暇の過ごし方について教えてください。

授業見学以外に模擬授業を行った。持ち時間は30分ほどで、テーマは自由、教授法についても全て自由に授業を組み立てた。模擬授業を通して、理論をもとにした自身の授業スタイルを構築するとともに、学生の反応からその授業が必要と合うかどうかの確認も行った。

余暇では、主要な観光地を中心に訪れた。タイで有名な寺やショッピングモールで時間を費やすことが多く、楽しむことはもちろん、タイの歴史に触れたり格差社会の現状を体感することができた。また、同期がタイ人であったため、その親戚に観光地に車で連れて行ってもらったり、自宅にお邪魔する機会も得た。タイの交通事情も知れ、観光地では味わうことのできない現地の人の生活を間近に体験することができた。

海外派遣留学生
留学報告書

[4] 派遣先でよく使った施設について教えてください。(図書館、学生会館、スポーツ施設等) 授業見学は教室で行い、そのまとめを寮に帰って行うという作業が主だった。また、東海の ASEAN オフィスの一室を使用可能にいただいたため、その場所で作業を行うこともあった。

[5] 宿舎(寮やホームステイ)での生活について教えてください。

部屋: 1部屋 1人で使用

様子: 2人部屋に1人で宿泊。ベット、デスク、タンスは2人分あり、その他に冷蔵庫が一つとエアコンがついている。ユニットバスでトイレとシャワーが一緒になっているが、間のシャワーカーテンはなし。また、ベンランダあり。

必要最低限の道具しかないので、長期滞在の場合は掃除道具やゴミ箱など必要に応じて自分で購入する必要があるだろう。

寮の門は夜 11 時から朝 5 時まで閉まるため、門限は 11 時。バンコク市内に出かけているとバスやタクシーを使って出ることになり、すぐ帰れるわけではないので時間管理は必要。

[6] 留学中に楽しかったこと、苦労したことを教えてください。

● 楽しかったこと:

授業見学を数多く行い、外国語としての日本語教育の現場を間近に見ることができた。普段学内で学んでいる理論とは異なり、現場ならではの工夫や学習者の需要の傾向が確認でき、理論を現場に落とし込む難しさやそれを実践している現地の教員の腕に圧倒される毎日であった。

同時に教員と話し合う機会を得ることもでき、タイの日本語教育の現状を知ることによって将来の就職や生活についてもより具体性を持って考えることにつながった。

● 苦労したこと:

模擬授業をさせていただける機会があったのだが、その授業作りは今までの感覚とは異なるものがあり、難しさを感じた。今までは大学の授業としての模擬授業でしか教案を作る経験が得られなく、それは少人数で学習者の状況も比較的統一されたものであった。しかし、タイでの模擬授業は人数も増え、その分学習者の多様性も溢れた状況であったので、全員に求められる授業を考えるのに苦労した。また、実際の教室で学生に先生としてみられる状況では、お金をもらっているプロとしてのゆまいを求められたように感じ、尚更緊張感が増していた。

留学報告書

[7] 留学の成果について教えてください

1) 語学力の向上:

語学留学でないため向上はなし。

しかし、実際のタイ現地にいることで社会に入り込む上で共通の言語を持つ音の重要性は感じる事ができた。

2) 専門知識の向上:

現場を加味した理論の扱いについてより具体性を持った知識を得られた。日本語教育は第二言語教育としての理論と実際の現場が存在する学問であるが、大学の講義のみではどうしても教育の理想とされる理論的な情報や考え方に偏った情報を得やすい。

そこに今回数多くの種類の現場を見学できたことで、より現場からの情報を得ることができた。そのため、今まで学んできた理論に具体性が増し、理論を現場の具体例とともに説明しやすくなったと感じる。

3) 自己成長など

今までは比較的理論をもとに自分のしたい授業や教育観を作ることで精一杯であったが、実際に勉強に励む学生たちを目の当たりにしたとにより、学生たちの需要を満たすような授業を作って行かねばならないと考えを広げることができた。自分のエゴと学生の求めるものの二項対立が起こる中で、どちらに傾きすぎることよくないと理解しながら、ちょうど良いバランスを模索しなければならぬと実感できた。今までとは少し異なった基準感を持つことができ、今後考えていく教育観に広がりを感じると自負できるものとなった。

[8] 来年度に留学を希望する学生へのアドバイスをお願いします！

全く知らない土地に踏み入れることは勇気が要り、恐れ多いものだと思います。しかし、環境を変え、異なる文化を持つ人々との交流は、今までの常識を覆すような新しい学びに出会えるチャンスでもあります。留学制度は大学の支援がある以上、自分 1 人で日本を出るよりもハードルは低めになるのではないのでしょうか。「留学先でうまく生活できるかわからない」「留学先で〇〇を達成しなければ」と不安もあるかも知れませんが、まず新しい環境に身を置くだけで大きな一歩です。現地に行けば自ずとなんとかなることもありますので、ぜひ新しい自分を知りに行ってみたいはいかがでしょうか。

海外派遣留学生
留学報告書

[9] 留学に関する費用の総額について内訳を教えてください。

項目※詳しく記入して下さい	金額(当時の日本円)
渡航費(旅行会社に支払った経費)	20万
授業料以外の諸経費(教材費・課外活動・保険料等)	0
私生活における諸経費(食費・交通費・洗濯費等)	4万
現地からの奨学金がある場合	0
お土産代や個人的な買い物	4万
その他()	0
留学に関する費用の総額	28万



海外派遣留学生
留学報告書

